

第8章 総合的な学習の時間

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

今回の学習指導要領改訂で、目標が新たに示された。

- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
 - (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
 - (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の指導では、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるようにすることが大切である。

2 指導計画作成の一般的な手順 ※次項の【図1】を参照。

指導計画には、全体計画と年間指導計画とがある。全体計画は、総合的な学習の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものである。年間指導計画は、全体計画を踏まえ、学習活動や実施時期、時数等を示すものであり、具体的には1年間の時間的な流れの中に単元を位置付けて示すとともに、必要に応じて他教科等との関連も書き入れていく。目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画等については、全体計画と年間指導計画のどちらかにおいては、明示する必要がある。

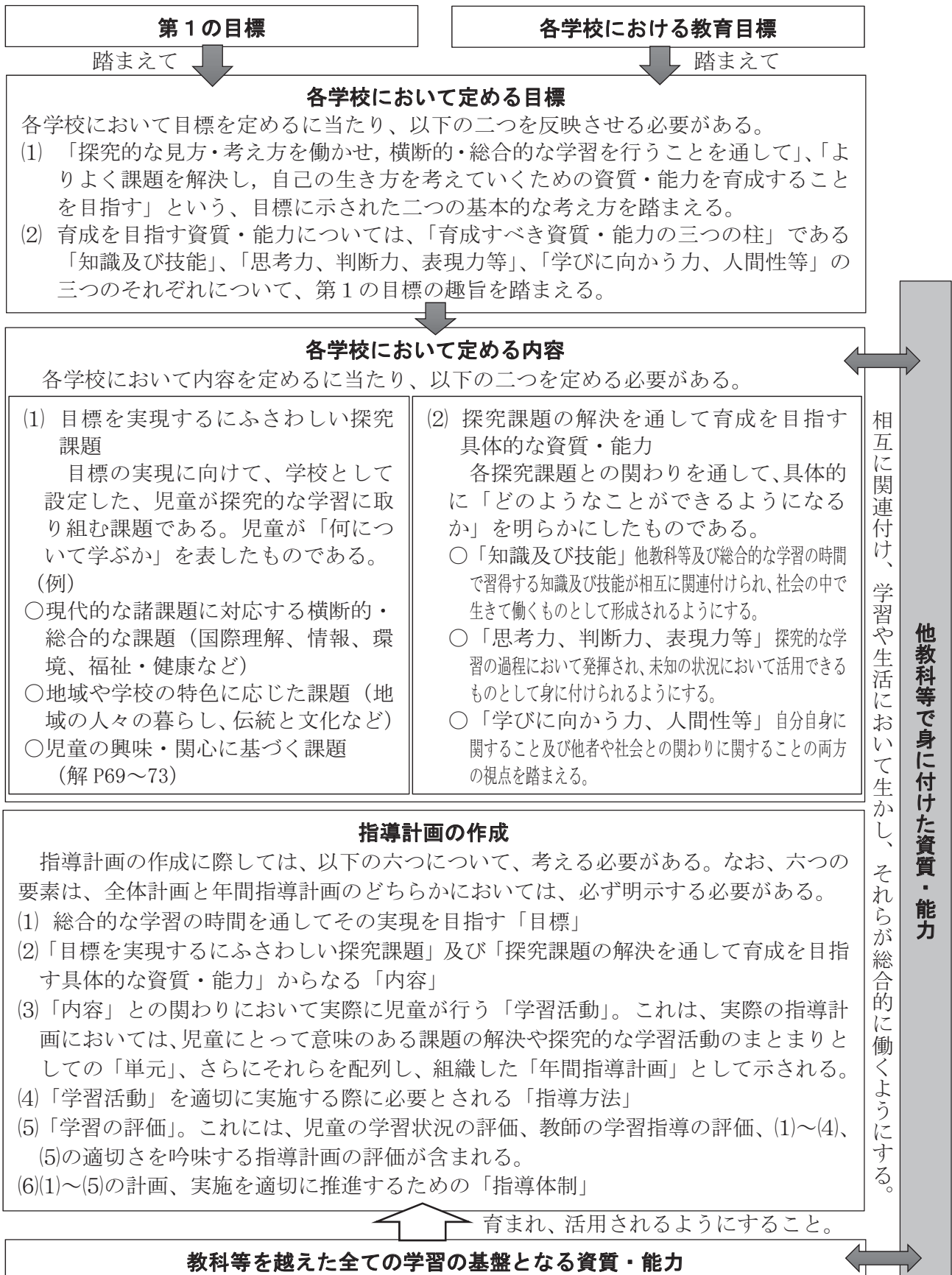
3 指導計画作成に当たって留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
障害等のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
探究の過程（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を一層質的に高めていくこと。「主体的な学び」には、課題設定と振り返りが重要であること。「対話的な学び」には、多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かうことが欠かせないこと。多様な他者と対話することは、①他者への説明による情報としての知識や技能の構造化、②他者からの多様な情報収集、③他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待、といった価値があること。このように、探究的な学習の過程を一層質的に高めていくことが、「深い学び」につながる。
- (3) 「教科等横断的」な視点
他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。その際、言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
学校の教育目標を教育課程に反映し具現化していくに当たっては、これまで以上に総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うこと。また、年間指導計画の中に児童の学習活動を支援してくれる団体や個人を想定し、学習活動の深まり具合に合わせて、いつでも連携・協力を求められるよう、日頃から関係づくりをしておくこと。さらに、学校と保護者とが育成を目指す資質・能力について共有しておくこと。

(5) 「道徳教育の充実」の視点

道徳科と総合的な学習の時間は、それぞれの目標、内容を有するものであるが、どちらも児童が自己の生き方を考えることにつながるものであること。児童の道徳性がより発展的、調和的に育っていくよう、道徳科と総合的な学習の時間における道徳教育との関連を図り、全体として道徳教育を充実していく必要があること。

【図1】



第2 指導計画作成のための資料

1 全体計画例

ここでは、全体計画を作成する上での具体的な例を示す。



2 年間指導計画例

「幼稚園児との交流と幼稚園児に関わる人々の思い」「身近な環境問題と自分たちの暮らし」～児童の興味・関心に基づく課題～
 ○○小学校 第4学年 年間指導計画 『みんな なかよし プロジェクト』『○○小 リサイクル部』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力
 ・課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。
 ・体験を通して得た情報や、他者からの情報を基にして自ら課題を設定できる。
 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことができる。

月	単元 (時間)	学習過程	○活動名 ・活動内容	○思考ツール ▲各教科との関連 ★地域との連携 □指導形態	
4	みんな なかよし プロジェクト (40)	課題 情報整理 まとめ 整理 課題	○幼稚園との交流会を計画しよう(1回目) ・○○幼稚園との今までの交流を振り返り、これからの活動に見通しをもつ。 ・交流会の計画を話し合ったり、遊び方を調べたりする。 ・グループで話し合ったことを全体で話し合い、情報を共有する。 ・共有したことから、自分の活動に合うものを選択し、各自準備する。	□全体 ○ウェビングマップ(関連付ける) □全体・小グループ ○ボックスチャート(焦点化する) □全体・個人	
5			○幼稚園と交流会をしよう(1回目) ・○○幼稚園に行き、交流会を行う。 ・交流会の内容や遊び方について振り返り、整理・分析することで成果と課題を明確にする。	□全体・小グループ ○PMI(多面的に見る)	
6			○幼稚園との交流会を計画しよう(2回目) ・園児のことを理解するために、幼稚園での生活の様子を見学する。 ・見学したことを基に、自分達の交流会のテーマを考える。 ・見学したことやテーマを基に、交流会の内容や遊びの計画を話し合い準備する。	□全体 ★○○幼稚園 □全体 ○ピラミットチャート(構造化する) □全体・小グループ	
7		まとめ 整理 課題	○幼稚園と交流会をしよう(2回目) ・○○幼稚園に行き、交流会を行う。 ・交流会の内容や遊び方について振り返り、整理・分析し成果と課題を明確にする。	□全体・個人 ★○○幼稚園 □全体・小グループ ○PMI(多面的に見る)	
9		情報 整理 まとめ 整理 課題	○幼稚園との交流会を計画しよう(3回目) ・交流会について、幼稚園の先生の思いや園児の思いをインタビューする。 ・インタビューしてきた思いと自分達の気持ちを比較する。 ・全体で話し合ったことを基に、交流会の内容や遊びの計画を話し合い準備する。	□全体 ▲国語(インタビュー) ★○○幼稚園 □全体・小グループ ○ベン図(比較する) □全体・個人	
10			○幼稚園と交流会をしよう(3回目) ・小学校に園児を招待し、交流会を行う。 ・これまでの交流を時系列で振り返る。 ・振り返ったことを基に、人との関わり方を見直していく。	□全体・個人 ★○○幼稚園 □全体 ▲国語(新聞などにまとめる)	
11			○「もったいない」から○○小を見直そう ・学校から出るゴミの種類や量を調べ、グラフや表に表し、その結果や処理の仕方について話し合い、これからの活動に見通しをもつ。	□全体 ▲社会(ごみの処理と利用)	
12		○○小 リサイクル部 (30)	情報 整理 まとめ 整理 課題	○3Rについて調べる ・話し合ったことを基に、パソコンや本、資料を使い、3Rについて調べる。 ・調べたことから自分達にできる3Rについて話し合い、計画する。	□個人 ▲社会(ごみの処理と利用) □全体・小グループ ○座標軸(分類する)
1			○3Rをやってみよう ・学校でのリデュースやリユースに関係したポスターを作ったり、学校から出たゴミを使い、リサイクル製品を作ったりする。 ・作ったリサイクル製品やポスターなどを紹介し合う。 ・紹介し合ったことを振り返り、整理・分析し成果と課題を明確にする。	□個人・小グループ ▲図工(身の回りの材料を使う) □全体 ▲国語(説明文) ○PMI(多面的に見る)	
2			○リサイクルギャラリーを計画しよう ・大学の先生や環境センターの人にインタビューをする。 ・インタビューしたことを基に、リサイクルギャラリーを計画したり、ギャラリーに展示するリサイクル製品などを作ったりする。	□全体 ★大学の先生 ★環境センター職員 □全体・個人 ▲国語(インタビュー)	
3	まとめ 整理 課題	○リサイクルギャラリーをしよう ・自分たちの作ったリサイクル製品を地域の人たちに紹介する。 ・これまでの取組を時系列で振り返り、今後の生活の仕方を考える。	▲図工(身の回りの材料を使う) □全体・個人 ▲国語(説明文) □全体		

「食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者」～地域や学校の特色に応じた課題～

〇〇小学校 第5学年 年間指導計画 『〇〇まち探検隊～すごいぞ〇〇の野菜』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

- ・探究課題に対して多面的な視点で探究活動を行うことで、地域の特徴やよさに気付き、探究課題に対する自分なりの概念形成をすることができる。
- ・食をめぐる問題とそれにかかわる地域の農業や生産者について、その努力や工夫に気付くことができる。
- ・調査して得た情報を基に、比較・分類等の思考を駆使して整理・分析することができる。

月	単元 (時間)	探究の 過程	〇活動名 ・活動内容	〇思考ツール ▲他教科等との関連 ★地域との連携 □指導形態	
4	知ってるっ！〇〇町の野菜 (22)	課題 情報 整理	〇地域の野菜って、知っている？ ・地域の野菜について知っていることや印象を話し合う。 ・地域の専門家の講話を聞き、自分たちの地域で作られている野菜について知る。 ・ボックスチャートを使い、聞いた内容と疑問に思ったことを整理する。	□一斉 ★地域の野菜農家のボランティア □小グループ 〇ボックスチャート(分類する) □小グループ	
5		情報 整理 情報 情報	〇地域の野菜を植えよう・調べよう ・地域の専門家に教わりながら、野菜の植え付けを体験する。併せて、植え付けの体験について記録をし、感想も加えてファイリングする。 ・毎日の世話について、方法や当番の仕方などを話し合い、世話を開始する。 ・パソコンや図書などを使って野菜の育て方を調べ始める。	★地域の野菜農家のボランティア	
6		情報	・毎日の観察日記を続けながら、日々の様子や育成の問題点について調べたことを教室の「お知らせコーナー」に掲示したり帰りの会で発表したりして、情報の共有をする。	▲理科(植物の成長の条件) □一斉・個人	
7		整理 まとめ	・ファイリングした活動の記録を見ながら振り返り、調べたことや活動したことをミニレポートにまとめる。	〇二次元表(比較・分類する)	
9		整理 課題 整理	・お互いのミニレポートを読み合い、活動や情報の共有をする。 ・今までの活動で明らかになった問題点や課題を確認する。 ・ウェビングマップを作成し、イメージを形にしたり広げたりする。	□個人・全体 〇ウェビングマップ(関連付ける)	
9		育てた！調べた！味わった！〇〇町の野菜 (24)	整理 課題	〇地域の野菜のよさって何だろう？ ・今までの振り返りから、個人でやってみたいことを決定する。 ・個人の課題を集めて、全体で解決したいことややってみたいことを出し合い、これからの共通の課題を決定する。	□個人 〇ボックスチャート(比較する) □一斉
10			課題	・個人の希望する課題ごとにグルーピングを行う。	□小グループ
11			情報	〇もっとよさを知るために ・地域の農家、専門家、JAの方にインタビューをしたり、実際に野菜の様子を見てももらったりして、解決策を調べる。	□小グループ ★地域のJA・近隣の農家
11			整理 情報	・地域の野菜についての統計資料を収集する。 ・育てた野菜の調理法を調べ、調理して試食する。	▲理科(植物の発芽、成長、結実) ▲算数(資料の分類整理) ▲家庭科(調理の基礎)
12	整理 まとめ		・調べてきた情報をまとめ、目的にそって取捨選択する。 ・中間発表として今までの活動をまとめ、発表の準備をする。	□小グループ(栄養教諭との連携)	
12	整理 情報 課題		〇伝えてみよう！地域の野菜のよさ ・発表をお互いに見合いながら、よさが伝えられているか相互評価をする。 ・地域の人を招いて、発表についてアドバイスを頂く。 ・相互評価や地域の方のアドバイスを整理し、これからの課題を考える。	□パビリオン形式の発表 □一斉・小グループ	
12	すごいぞー！知ってるっよー〇〇町の野菜 (24)	課題	〇もっとよさを伝えるために ・中間発表の振り返りから、さらに掘り下げる課題を設定する。 ・地域の野菜のよさをよりよく発信できる方法を考える。	□小グループ 〇XY軸(見通す)	
1		情報 整理 まとめ	〇まだまだあるぞ！地域のいいところ ・さらに深めたい課題を、訪問や体験活動なども加えて再調査する。 ・調べて分かったことや体験してよかったことを、壁新聞の掲示や帰りの会の発表で共有し、グループ同士で情報を補完し合う。	□小グループ ★地域のJA・近隣の農家 ▲社会(我が国の農業と食料生産)	
2		整理 まとめ	〇PRすることを選びぬこう ・地域のよさ、地域の野菜のよさに焦点をあてて、情報を整理する。 ・発表パネルや発表原稿を準備する。効果的なPR方法も考える。	□小グループ 〇ピラミッドチャート(焦点化する) ▲国語(資料を用いた説明)	
3	表現 整理 課題	〇広めよう！地域の野菜のすごいところ ・本発表を行い、保護者や今までお世話になった地域の人たちに発信する。 ・アンケートで保護者や地域の人たちの意見を集め、分析する。 ・野菜を通して発見した地域のよさと、自分たちがどう地域に関わっていくかについて考える。	□パビリオン形式の発表 □一斉・小グループ □個人 ▲国語(まとめたことについての討論)		

「安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々」～横断的・総合的な課題～

〇〇小学校 第6学年 年間指導計画 『知ろう！守ろう！わが町の安全』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力
 ・探究課題に対して多面的な視点で探究活動を行うことで、地域の特徴やよさに気付き、探究課題に対する自分なりの概念形成をすることができる。
 ・安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々について、その努力や工夫に気付くことができる。
 ・探究的な学習を基に、「自分にできることは何か」の視点をもって活動したり、自分の思いや考えを振り返り今後の自分について考えたりすることができる。

月	単元 (時間)	探究の 過程	〇活動名 ・活動内容	〇思考ツール▲他教科等との関連 ★地域との連携 □指導形態
4	(22)	課題 情報	〇地域の危険なところ、どこだろう？ ・地域の危険箇所について、防犯、交通の面から知っていることや印象を話し合う。 ・地域の防犯ボランティアの話聞き、地域の安全を守る取組について知る。	□一斉 〇ボックスチャート(分類する) ★学校応援団・地域の防犯ボラン ティア
5		情報 整理	・防犯や交通安全の基礎的な知識をインターネットや図書で調べる。 ・地域を探索し写真を撮り、防犯・交通安全面での注意箇所を簡易マップに書き込む。 ・地域の警察にマップや写真を見てもらい、アドバイスを受ける。	□小グループ ▲社会(地域の安全を守る諸活動) ★地域の警察署
6		整理 まとめ	・調べたことを出し合い、警察署のアドバイスを参考に重要な情報を選別する。 ・グループで活動したことを個人で安全マップにまとめる。	□小グループ・個人
7		整理 まとめ	・お互いの安全マップを読み合い、活動や情報の共有をする。 ・今までの活動で明らかになった問題点や課題を確認する。	□小グループ 〇フィッシュボーン (構造化する)
9		課題	・フィッシュボーンを活用し、課題点とそれに対する調査内容をまとめる。	
9	(24)	課題	〇もっと安全について考えてみよう ・既習の知識を生かして、防犯や交通安全以外の他の危険について出し合う。 (自然災害：地震、水害、落雷など)(人為的災害：火災など)	□一斉 〇ウェビングマップ (関連付ける)
10		課題 課題	・防犯・交通安全も含めて、さらに個人で追究したいことを決定する。 ・個人の課題を集めて、全体で解決したいことや追究したいことを出し合う。	□個人 □一斉 □小グループ ▲特活(事件や事故、災害等か ら身を守り安全に行動する こと)
10		情報 整理 情報 情報	〇地域の安全への取組を調べよう ・基礎的な知識を下調べして、関連する新聞記事や書籍資料を集める。 ・地域の防災マップをもとに探索し、気付いたことや疑問点を持ち寄る。 ・災害への対策についての講話を、地域の防災課の職員から聞く。 ・起震車体験や煙体験など、より実践的な防災訓練を体験する。 ・消防署や警察署にインタビュー(直接・電話・メール)をし、疑問点を解決する。	□一斉 ★消防署・防災センター等 □小グループ □小グループ
11		整理 まとめ	〇地域の取組から、防犯や防災について考えよう ・小グループで調べてきた情報をまとめ、自分たちにとって関わりが高い順に重要度を 決め、取捨選択する。 ・パソコンのワープロ機能で、今までの活動をレポートにする。	〇ボックスシート(順序付ける) ▲国語(調べたことをまとめて報 告する)
12		まとめ 課題	〇お互いの取組を共有しよう ・お互いのグループのレポートを読み合い、意見交換をする。 ・他のグループの意見をもとに、現状の課題点を考える。	□パピリオン形式の発表 □一斉・小グループ
12	(24)	整理 課題 課題	〇わたしたちにできることは何だろう？ ・意見交換をもとに、自分たちができる安全対策について考える。 ・実践計画を立て、交渉が必要なところに連絡をする。 ・ネットにかかわる危険など、新たな課題について出し合う。	□小グループ 〇XY軸(見通す) 〇フィッシュボーン(前出に加筆)
1		情報 まとめ 情報 整理	〇試してみよう、わたしたちにできること ・課題ごと(防犯・交通安全・自然災害など)に日々実践してみることや体験できる ことに取り組み、分かったことや感じたことをまとめる。 ・ネットの危険性について、外部講師の話聞く。 ・今までの取組を、「わかったこと」「みんなに知っておいてもらいたいこと」「自分た ちが体験したり実践したりしたこと」「みんなとこれからできること」の四つの視点 に立って整理し分類する。	□小グループ □一斉 ★外部講師(SNS業者) □小グループ 〇ピラミッドチャート (焦点化する)
2		まとめ	・活動のまとめをビデオで撮影し、保護者や他の学年に発信する。 ・校区内の危険箇所について注意を喚起するポスターを作り、校内に掲示する。	▲国語(調べたことをまとめて報 告する)
2		整理 まとめ	〇続けていこう！わたしたちにできること ・発信した相手にアンケートやインタビューをして、取組について改良すべき点や修正 点、継続する課題についてXチャートを使って整理する。	□一斉・小グループ
3		課題	・今までのお互いの取組について、実践という視点で相互評価し合う。 ・自分にとっての地域と安全について考え、これから継続していく取組や意識していく ことを確かめる。	〇Xチャート(分類する) □個人

3 単元計画作成のポイント

(1) 単元計画作成の基本的な考え方

総合的な学習の時間では、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。学習活動の展開においては、育成を目指す資質・能力が育まれるように、児童が自ら課題を解決する過程を想定して単元の計画を立てなければならない。

(2) 単元計画作成の留意事項

〈児童の関心や疑問をとらえ、単元計画につなげていくための三つの留意点〉

ア 児童の関心や疑問は、その全てを本人が意識しているとは限らず、無意識の中に存在している部分も多いと捉えること。(解P95)

イ 児童の関心や疑問とは、児童の内に閉ざされた固定的なものではなく、環境との相互作用の中で生まれ、変化するものと捉えること。(解P95)

ウ 児童にとって切実な関心や疑問であれば何を取り上げてよいわけではなく、総合的な学習の時間において価値ある学習に結びつく見込みのあるものを取り上げて単元を計画すること。(解P96)

〈児童主体の学習活動の中で、資質・能力を育成するための二つの留意点〉

ア 学習の展開における児童の意識や活動の向かう方向を的確に予測することである。そのためには、まず児童の立場で考えること。次に複数の教員で予測を行い、意見が異なった点については慎重に検討すること。また、タイプの異なる児童を想起し、「この児童であればこの場面ではこう考えるのではないか」などと、可能な限り具体的に即して丁寧に予測することなどが重要である。

イ 十分な教材研究をすること。総合的な学習の時間においては、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりを基に単元を構成するので、その活動の過程において取り扱う内容は一つとは限らない。一つの単元の中で複数の内容が見込まれることも考えられる。したがって教材研究においても、できるだけ幅広く拡散的に思考を巡らせていくことが重要である。

(3) 単元計画としての学習指導案

〈1単位時間の指導計画の作成について〉

単元の指導計画を基に、他者と協働して問題解決したり、言語により分析しまとめたりするなどの学習活動を工夫し、自己の考えがもてるようにする。特に、課題設定の場面で見通しやゴールのイメージをもつこと、整理・分析場面で考えるための技法を活用すること、振り返りにより変容を自覚し次に生かすことなど、主体的・対話的で深い学びを実現するために探究のプロセスを一層重視する。

〈単元の計画を具体的に表現するために学習指導案に位置付ける項目〉

ア 単元名

児童の学習の姿が具体的にイメージでき、学習の高まりや目的が示唆できるような単元名にすることが大切である。

イ 単元目標

各学校の目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成することが大切であり、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示す必要がある。

ウ 児童の実態

目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握することが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明記することが必要である。

エ 教材について

教材とは、児童の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことであり、単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

オ 単元の展開

目標を実現するのにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、児童の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。

単元の学習を通して、獲得させたい「概念的な知識」、期待する「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の伸長を明確にし、児童の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想しなければならない。

4 単元計画例

(1)主体的・対話的で深い学びの実現を図る視点から指導を工夫した例

○ 単元名「ぼくらの商店街、パワーアップ大作戦！！」(第3学年) 4月～3月 (70時間)

○ 単元目標

- ・商店街との関わりを通して、商店街の歴史や変化、店員・客の行動や気持ちを解釈し、学習の筋道を立てることができる。 【知識及び技能】
- ・情報収集した事柄を基に、新しい概念が形成され、それに基づいてよりよい解決をしようと考え、判断し、自分なりの表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・人との関わりを通して、よりよい解決をしようとしたり、生活に結び付けて考えたりするとともに、自己の成長に気付くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

○ 児童の実態 (省略)

○ 教材について

正門から駅までの500mの間に個人店がある。2年生の生活科で町探検をしているため存在は認識しているが、商店街に対してあまり関心がなく、自分の住んでいる街に対して意識が低い。そこで、自分の住んでいる町にある商店街を学習することを通して、地元のすばらしさを実感し、自分の住んでいる町に誇りをもち、地元へ愛着がわくことを願い、本単元を設定した。

1年間同じテーマで学習を進めていくためには、1年間もち続ける課題を子供たち自身で見つける必要がある。課題を見付けるために試行錯誤させ、子供たちの納得いく課題に出会わせるようにする。また、グループで店を担当することで情報の広がりをつねらった。そして、自分なりの学習の筋道が得られるように、活動の後には必ず話し合いを設定し、学びを深めるようにする。

○ 単元に関する具体的評価規準 (省略)

○ 指導計画 ※「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現

探究の過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価 (省略)	時数
	○オリエンテーション ・生活科で商店街に行ったことがある。	・自分で決めて自分で活動する学習であることを伝える。	1
課題	○商店街について話し合う。 ・2年生の時に勉強したから知っている。 本当を知っているといえるのか確かめよう	・本小単元は、課題を見いだすための学習であることを教師が意識する。【3(2)】	5
情報	○商店街を知っていると言えるのか確かめるために、町探検の活動を行う。 ・駄菓子屋やケーキ屋は知っている。 ・行ったことはないけど、見たことがある。	・活動前に目的を明確にし、活動を通して集めた情報を基に話し合いを行う。話し合う活動では、感じたこと考えたことを共有し、次の活動の方向性が見えるようにする。【3(2)】	
整理	○町探検で気付いたことを話し合う。 ・店の位置が正しくわからない。 ・知らないお店があった。お客が少ない。	・年間を通して、授業後に振り返りカードを記入し、学習の軌跡を残す。【3(2)】	
表現	・地域の人は商店街を利用しているのかな。	・事前に商店街の店舗数を把握する。 ・地図にまとめて商店街を知っているといえるのか気付けるようにする。【3(3)】	
課題	地域の人がどれくらい商店街を利用しているか調べよう	・本小単元は、課題を見いだすための学習であることを教師が意識する。【3(2)】	9
情報	○どのような方法で調べるか話し合う。 ・アンケートだったら自分たちでできそう。 ○地域の人たちが、どのくらい商店街を知っているかアンケート調査を行う。 ・家が遠い人は使っていないと思う。	・アンケートは大人用と子供用の2種類作ることによって商店街を多面的に捉え、課題を見つけやすいようにする。【3(4)】	
整理	○集計を表や棒グラフに整理する。	・支援を要する児童の意欲を高めるために、アンケート用紙を1人1枚担当できるように配慮する。【3(1)】	
表現	○結果から読み取れることを話し合う。 ・地域の人は大型店を利用し、商店街を利用していないことが分かった。 ・お店の人は知っているのかな。 ・商店街の人に伝えなければならない。	・調査結果から読み取れたことを個人で付箋に書き、グループ発表で考えを広げる。キーワードを見付けながら課題に対するまとめが出るようにする。まとめから、さらに調べたいことができるようにする。【3(2)】	

<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>結果を伝え、商店街をもっと知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人はお客さんが来ないことをどう思っているのか詳しく知りたいな。 <p>○調査結果を伝え、お店の人の考えを知るために座談会を開き、商店街についての情報をさらに集める活動をする。</p> <p>○商店会長の話を聞いて、分かったことや感じたこと等を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はにぎやかだった。今とは全然違う。 ・お店の人は全て知っていた。 <p>○お客さんをとられてしまい、かわいそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何とかしたい。 ・お客さんを取り戻すために自分たちは何をすればいいのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この小單元では、見つけた課題をより自分事にするのを教師が意識する。【3(2)】 ・商店会長には事前に昔の商店街の様子を話してもらおうようお願いし、今の商店街と比較できるようにする。【3(4)】 ・前回の調査活動で感じた自分たちの思いとお店の人の気持ちが同じであることに気付くような話合いの流れにする。【3(2)】【3(5)】 ・座談会から店の工夫を想起し、自分たちで見つけた課題を解決するための方法に注目できるようにする。【3(2)】 	5
<p>単元の課題：にぎやかな商店街を取り戻すために、パワーアップさせよう</p>			
<p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○お店がしている集客の工夫を調査する。</p> <p>○お客さんを取り戻す方法をみつけよう</p> <p>○夏休み中の調査結果を基に、課題を解決するための方法を出し合う。</p> <p>○夏休みに見つけた方法を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商店街ならではの方法」「自分達でできる方法」を軸に整理できそう。 ・お店の人と相談しないとできないものもあることに気が付いた。 ・その地域ならではの工夫がある。 <p>○お店の人に選んでもらったほうがいい。</p>	<p>(夏休み中の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、課題解決のための方法を決める学習であることを教師が意識する。【3(2)】 ・夏休みに情報収集することで、他地域との比較から意見の広がりをもてるようにする。その土地ならではの工夫があることに気付くことをねらう。【3(4)】 ・自分たちで選んだ方法について、お店の人に相談することで、相手意識が芽生えるようにする。【3(5)】 	4
<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○お店を知って、パワーアップさせよう</p> <p>○インタビューのための準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店を詳しく知るために質問を用意しておこう。名刺を渡そう。 <p>○お店のことを知るために、インタビュー活動をする。</p> <p>○インタビューして得た情報を基に、お店の人の思いや願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな物だと飾る場所に困る。旗ならよい。 ・修行をしたり受け継いだりした歴史が、それぞれのお店にある。 ・お客に来てもらうため努力している。 <p>○旗を作る活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力し続ける人がかっこいい。 ・かっこいい旗を作りたい。 ・旗で商店街のにぎやかさを取り戻したい。 ・本当に伝わるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、解決方法を実行するための準備であることを教師が意識する。【3(2)】 ・お店には事前に活動の趣旨を伝える。【3(4)】 ・お店の人と仲良くなり、名前と顔を覚えることの重要性に気付くようにする。聞いたことだけではなく、見たこと感じたことも店のよさであることに気付くようにする。 ・国語の単元と結び付けて学習を深める。【3(3)】 ・話合いで情報の共有をし、商店街の魅力に気付くようにする。【3(2)】【3(5)】 	10
<p>課題解決の方法: 「旗を作って、商店街をパワーアップさせよう」</p>			
<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p> <p>課題</p>	<p>○お店のよさが伝わるか確かめよう</p> <p>○旗を飾って準備する。</p> <p>○学校公開の展示会で感想を集める。</p> <p>○旗をよりよくするため、展示会で集めた情報を基に、改善点を見付ける活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい色づかいだと店に入りやすい。 ・遠くても近くても丁寧で分かりやすい旗。 <p>○旗作りの続きをする。</p> <p>○旗を届けて商店街をパワーアップさせよう</p> <p>○旗の思いを店員に伝える準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、よりよい課題解決のために見直す学習であることを教師が意識する。【3(2)】 ・より相手意識をもたせるために、作成途中で活動を見直す機会をつくる。展示コーナーを作り、学校公開で来校した地域の方に旗を見てもらう。よい旗にはシールを貼り、理由を付箋に残す。【3(4)】 ・本小單元は、課題解決の方法を実行する学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	6

情報	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っている店員さんがかっこいいと思ったことを伝えたい。 ○旗を届け、商店街への思いを伝えに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗のデザインの趣旨が説明できるようグループで話し合う機会を設ける。訪問前に評価の観点を子供と話し合いながら作成する。店員の表情、言葉、態度などの視点で観察できるようにする。【3(4)】【3(5)】 	5
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○旗を届けに行ったときの様子を話し合い、課題解決に結び付いたか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後は、各店舗の情報を共有することで、今回の活動が成功したと言えるのか話し合う。その際、店員だけではなく、客の反応も考える必要性に気付かせる。【3(2)】 	
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔だった。お礼を言ってくれた。 ・「客が来てくれそう」と言ってくれた。 ・旗を作ってよかった。 ・お客さんは増えるかな。 		
表現	<p>自己の成長を見つけよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、ポートフォリオを活用し、これまでの活動を価値付ける学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、自分の成長を見つけ、付箋に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを読み返し、自己の成長を見つけやすくする。見付けられない子供には文字数など数値化しやすい事柄に注目させる。【3(1)】 	7
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか見付けられないな。 ○これまでの活動を振り返り、友達の成長を見つけ、付箋に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の成長を見付ける際は、活動班内で1人ずつ見つける時間を設定し、どの子供も複数の付箋がもらえるようにする。【3(1)】 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の成長は見付けやすい。 ・友達にたくさん見付けてもらった。 		
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○2種類の付箋から、自分の成長を文章や絵に書き表す。 ・成長していた。3学期もがんばろう。 		
課題	<p>活動の効果を確かめよう 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、活動の評価を行う学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○客が増えたか調査する評価方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容は、お客さんが来たかこないかだけではなく、気持ちの変化を問う項目も入れるようにする。 	6
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなら忙しい人も答えられる。 ・手紙で気持ちを伝えたい。 ○アンケートの内容と答え方を考える。 ○アンケートを届ける準備をする。 ・変化があったか聞きたい。質問しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは集計しやすい答え方を考える。 ・アンケートはお店用とお客用の2種類を作ることによって、自分の活動がお店に貢献したことだけではなく、地域の人に影響したことも確かめられるようにする。【3(2)】 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートを届けに行く。 ・たくさん会話してきた。 ○旗の効果を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートはお店用とお客用の2種類を作ることによって、自分の活動がお店に貢献したことだけではなく、地域の人に影響したことも確かめられるようにする。【3(2)】 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんは増えていないことを知った。 ・自分たちの活動は無意味だったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の人には、子供の活動で客数は簡単に増えない現実を伝えるようお願いする。【3(4)】 	
表現	<p>活動の効果を確かめよう 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、活動の評価を分析する学習であることを教師は意識する。【3(2)】 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートを集計する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集計やグラフへの整理等の作業がしやすいように環境を整える。 	6
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフにすればわかりやすいよ。 ○集計結果から分析する。 ・客は増えていない。無意味な活動なのか。 ○結果から、これまでの活動を話し合う。 ・お客さんは増えなかったが、店員の気持ちが明るくなった。成功したといえる。 ・客は商店街に行っていないが、行ってみようと思った人がたくさんいる。 ・自分達の活動が人の心を動かした。このことをお店の人に伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を基に考察する。【3(3)】 ・数字だけではなく、店員や客の気持ちに注目させて話し合わせる。お店を訪問した時の店員の表情や言葉も思い出すことで、お店の人の思いや願い、なぜ活動に協力してくれたのかなどを考えさせる。【3(2)】【3(5)】 	
表現	<p>学習の成果と感謝の気持ちを伝えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、学習のまとめとして、これまでの学習の軌跡を自分なりに表現する学習であることを教師は意識する。【3(2)】 	6
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の気持ちを伝える方法を検討する。 ○お店の人に礼の手紙を書く。 ○手紙を届けて、お礼を伝える。 ○お店の人と会話したことを話し合う。 ・学習が終わっても挨拶を言おう。 ・常連になれるようがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは学習が終わってからどのように商店街と関わるかを話し合わせる。【3(4)】 	

(2) 探究の過程（スパイラル）を意識して指導を工夫した例

○ 単元名「お米で広がるぼくらの世界」（第5学年）4月～12月 （45時間）

○ 単元目標

- ・体験活動と整理・分析活動を連動して協働的に活動することを通して、課題解決のための一連の学習を学び、米に対する自分なりの概念を形成することができる。 【知識及び技能】
- ・探究課題に対して多面的な視点から繰り返し関わりながら課題を発見したり、関連付けや比較等しながら整理・分析したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・米に関する自分なりの概念を形成するとともに自分の生活を振り返り、どうやって米と付き合っていくのかを考え実行することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

○ 児童の実態（省略）

○ 教材について

日本人にとって、歴史的に米飯は食生活で欠かせない存在である。しかし、近年の消費量や生産量は約50年前と比べて半減しており、稲作農家に至っては5分の1にまで減少している。

本単元では、「このままだと自分たちが大人になった時に稲作がもっと衰退してしまうかもしれない」という危機感の基で学習を進める。ただし稲作が全く無い本校地域の実態を生かし、「お米の消費を増やすためには？」として稲作から漬け物作りに学習活動を広げていく。そのために『体験活動を繰り返し行うこと』『体験活動を含めた情報の収集後は必ず整理・分析活動を行うこと』により、課題を更新しながら探究的な活動がスパイラルに発展していくことに留意して学習を進めていく。

また、「お米に合うとは何か」「自分にとって日本の食はどんな存在か」等の概念に関する問いを定期的に記していくことで、児童個々の学びの深まりを見ていくようにする。

○ 単元に関する具体的評価規準（省略）

○ 指導計画 ※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

探究の過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価（省略）	時数
情報整理	○単元に関わるアンケートを回答する。 ○アンケート結果と日本における米の各種データ（生産量・消費量・米農家数等）を整理・分析する。 ・男子と比べて女子はご飯が好きでなかったりあまり食べなかったりするね。 ・データを見ても1965年と比べて全ての数値で大きく減っているね。	・グラフの読み取りについて、様々な比較を交えて数値の読み取りができるようにする。【3(3)】	3
表現課題	・このままだと更に減少してお米がなくなるかもしれない。		
整理	○まとめを基に単元の課題を設定する。 「お米の消費を増やす取組を考えよう」	・グループや全体で話をする中で、多様な考えを引き出すとともに、様々な視点で話し合うことのように感じるようにする。【3(2)】	5
課題情報	○各種データの読み取りを基に第1の課題を設定する。 ・まずはお米の現状が分かる課題を作って調べてみよう。 ・〈課題例〉今と昔の米の種類に違いはあるか。	・各種のデータを客観的に整理し、データを根拠に話し合うようにする。その際、整理分析に有効な思考ツールを積極的に利用し、整理したことが可視化できるようにする。【3(2)】	
表現整理	○話し合いで決まった課題について、グループで分担して情報を収集する。 ○調査結果を表やグラフ等を利用してまとめ、報告会を行う。 ○各グループの報告と自分たちの現状を振り返り、自分たちにできることを考える。 ・私たちの地域は稲作が無いし、学校に栽培できる場所もないから、お米の消費を増やす「おかず」を考えるのはどうだろう。		
表現	・学校ファームがあるから、野菜を育てて、野菜を生かしたものを作りたいね。例えば漬け物？ ・漬け物だったら自分たちも作れると思う。それで行こう！		
課題	○話し合いを基に課題を考える。 「ご飯が進む漬け物」を作ってお米の消費を増やそう		
情報	○どんな漬け物にしていくか考えるために今まで食べたことのある漬け物やよく食べられている漬け物等を調査する。		
整理	○調査結果を整理し、追究する漬け物の野菜や味付け等と学		

<p>課題 情報 整理</p>	<p>校ファームで栽培する野菜を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭で出てくる漬け物やアンケート等で「きゅうり」を使った漬け物が一番多かったけど、スーパーでは白菜が多かったかな。でも野菜の種類は結構あったよ。 きゅうりや白菜、茄子ならこの時期からでも栽培できるみたい。この3つに絞って試行錯誤したい。 ○野菜や調理法別にグルーピングをし、各グループでどのような漬け物を目指すのかを考える。 ○各グループで漬け物作りを行う。 ○クラスで試食をするに当たり、審査の基準を考える。 ○各グループの漬け物の試食をして、出来栄を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「味」だけでなく、「野菜の美味しさを生かす」も大切だね。 もっと美味しい漬け物を作るために「漬け物の先生」がいたら、教えてもらいたいね。 家の近くに漬け物を作っているところがあるよ。その人を呼んで教えてもらおう。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の切り方や調味料の分量の測り方など、家庭科の調理実習で学んだことを生かせるようにする。【3(3)】 児童同士の学習から校内や地域に学習が広げられるようにアドバイスする。 	<p>12</p>
<p>課題 情報 整理 表現</p>	<p>漬け物名人から漬け物作りのコツを学ぼう ○ゲストティーチャーに漬け物作りの実演と、漬け物作りで大切なことなどの話を聞く。 ○ゲストティーチャーから学んだことを整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 何か特別な調味料を使っている訳ではなかったね。 食べてくれる人が美味しいと言ってくれることを大切にしていたから、僕たちもそうしたいね。 「みんなで協力して作るべきだ」と言っていた。みんながバラバラに作るのもいいけど、みんなで力を合わせて一つの漬物を作りたいな。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域で漬け物工場を経営されている方から、漬け物の作り方だけでなく、漬け物作りで大切にしていることなど、「技」と「心」の両面で話をさせていただくように打ち合わせをしておく。【3(2)】 	<p>4</p>
<p>課題 整理 情報 整理 情報 整理 表現</p>	<p>オンリーワンの漬け物を作ろう ○「オンリーワン」の定義を話し合い、漬け物作りの方向性を決める。 <ul style="list-style-type: none"> 「オンリーワン」は「たった一つだけ」という意味だから、使う野菜や作り方も今までにないものがあるといい。 みんなが納得すれば今までにないものを使わなくていい。 漬け物名人に美味しいと言わせることを目標に頑張ろう。 ○同じ材料を使って漬け物作りをする。 ○漬け物を試食して更に方向性を絞る。 ○話を生かして、漬け物を作る。 ○ゲストティーチャーに食べてもらう漬け物をどれにするかや、試食会の進め方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 食べていただく漬け物は一つに絞らないで、みんなが納得したもの全てを食べてもらおう。 「ご飯に合う漬け物」の視点で食べてもらおう。 食べていただくだけでなく、レシピやこの味に到達するまでの道のりもまとめて、お話を聞いてもらおう。 食べてもらう漬け物のレシピやこれまでの活動行程について紹介するものを作成する。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たち」の視点だけでなく「誰もが」という視点を大切にするなど、『思いやり・親切』の態度の育成にも意識して学習を進めるようにする。【3(5)】 	<p>15</p>
<p>課題 表現 情報 整理</p>	<p>漬け物試食会を開こう ○ゲストティーチャーや保護者を招いて試食会を行う。 ○試食会でのゲストティーチャーのお話や試食会に来ていただいた方のアンケート用紙を集計し、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 高い評価もあるけど、まだまだという評価もあるね。 取組への姿勢についての評価もあって嬉しいな。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 試食していただく方には率直な評価をしてもらうよう、事前にお問い合わせしておく。 	<p>4</p>
<p>整理 表現</p>	<p>これからのお米と漬け物への向き合い方を考えよう ○単元を通して、自分が学んだことについての考えを持つ。 ○「お米の消費を増やすために自分にできること」について、考えたことや実践できることを表明する。 <ul style="list-style-type: none"> お米は日本の大切な文化だけど、漬け物も日本の大切な文化だと思う。どちらも大切だから、少しでも消費を増やしたり伝承したりしていきたい。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して学習してきたことや学んだこと、考えたことを、時間をかけて書けるようにする。 	<p>2</p>